

まちが「石狩さけまつり」でにぎわう
9月下旬、時を同じくして落花生が収
穫のピークを迎えていました。

落花生は収穫期間が短く、寒くなる
とすぐに土の中の実が抜けなくなっ
てしまします。「もたもたしている」と
そのまま畑の中に残ってしまつた、カ
ラスに食べられるか。だから収穫作業
は時間との勝負。残念ながらさけまつ
りには行けないんです」と苦笑するの
は、石狩落花生研究会で運営責任者を
務める秋田谷順子（あきたや じゅんこ）さんです。

同会が北生振にある須藤農園で活
動するようになって10年目。10a*から
スタートした落花生畑は、現在50aに
まで広がりました。2024年は前
年より涼しく、そのため昼夜の寒暖差
からか味が良く、心配された収量も
上々で、会員たちはその豊かな実りを、
慣れた手付きで次々と収穫していま
した。

落花生はその後、乾燥させますが、
一部を「生落花生」として葉付きのま
ま「JAさっぽろ地物市場とれのさ
と」で販売しています。当初は、驚きと
珍しさをもって迎えられたこの「生落
花生」ですが、今では知る人ぞ知る人
気商品に。

実は、会員たちの多くがこの「生落
花生」のおいしさを知り、「収穫作業に

※1a=100㎡

も参加したいと思った」と口をそろえ
て言います。それは、石狩落花生研究
会を立ち上げたメンバーたちも全く
同じ。同会の秋田谷さんは話します。
「生産者の須藤さんが大変理解のある
方で、私たち消費者が畑に来ることを
歓迎してくれました。畑に来ればいろ
んなことが分かります。あの土づくり、
種まき、草むしりがあつてこそのおい
しさなんだとか。10年の間には今年
は小さいね、全然ダメだったね、とい
う年もありましたが、それには天候の
影響や鳥獣被害の現実がある。そうし
たことを私たちは、この畑で学ばせて
もらっているのです」

特集

落花生畑で会いましょう

—ここに始まる新たな縁—

そのおいしさに感激し、消費者が生産者に
リクエストして始まったという石狩の落花生
栽培。そこには「石狩の新たな特産品に！」と
いうムーブメントも生まれていました。そんな
落花生を巡る人々の思いをご紹介します。

☎石狩落花生研究会 ☎070・5285・2722

石狩落花生 研究会のあゆみ



2013年

●市とNPO法人ひとまちつ
なぎ石狩共催の「いしかり農
産物エキスパート養成講座
（現・季節を楽しむ地産地消
講座）」で、石狩市農業総合支
援センターの試験ほ場を訪
れ、試験栽培中の落花生を見
学。ゆで落花生を試食し、そ
のおいしさに感銘を受ける

2014年

●講座の卒業生の有志で「いし
かり食と農の応援隊」を結成
し、石狩市農業総合支援セン
ターの試験ほ場で落花生を
栽培（10a）
●市主催の「いしかり食と農の
未来づくりフェスタ」でゆで
落花生を試食してもらう（
2016年）
●落花生の料理教室を開催（
2017年、2019年）

2015年

●「石狩落花生研究会」を発足。
会長は北生振地区の生産者
の須藤聖治氏
●北生振の須藤農場で落花生
を栽培（20a）

2016年

●北生振の須藤農場で落花生
を栽培（25a）
●地物市場とれのさとで「冷凍
塩ゆで落花生」の販売開始

2017年

●北生振の須藤農場で落花生
を栽培（30a、2021年）
●北生振のリーフファームと
川崎農園のほ場で試験栽培

落花生が出来るまで

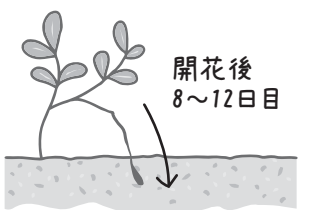
1



2

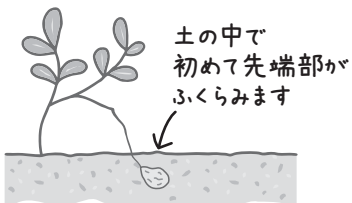


3



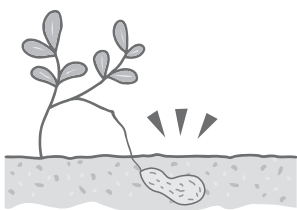
子房柄がぐんぐん伸びて土の中へ

4



だんだん落花生らしい姿に

5



落花生の出来上がり!



加工品用の落花生の収穫を担当するのは、石狩落花生研究会の創立メンバーである「いしかり食と農の応援隊」の皆さん。一消費者でありながら、手慣れた様子で洗浄作業などをサポートしていました。

落花生の収穫が年中行事になっているという田守家。父・敏さんさとしがJAさっぽろ地物市場とれのさとで落花生に出合い、そのおいしさに引かれて石狩落花生研究会に入ったことがきっかけに。



2023年

- 着払いで落花生を郵送する応援会員制度を導入
- 地物市場とれのさとで藤女子大学による「落花生おにぎり」「落花生シフォン」の販売「わくわく食育体験」を開催。9組28人の親子が参加

2022年

- 生活クラブ生活協同組合の通常カタログで生落花生の販売開始
- 石狩落花生研究会の記念誌「いしかりのおいしい落花生レシピ本」発行
- 石狩産落花生で鬼退治イベントを開催（～現在）
- 北生振の須藤農場で落花生を栽培50a、（現在）
- 試験的に機械播種、作業省力化のため崩壊性マルチを使用
- 地物市場とれのさとで藤女子大学による「落花生おにぎり」の販売

2021年

- 収穫代行会員、アンバサダー会員制度を導入
- 認定こども園・くるみ保育園児が収穫体験（2022年）

2020年

- 札幌市内の飲食店2店で石狩産落花生を使用したメニューを提供

2019年

- 地物市場とれのさとで「ベジソフト（落花生）」の販売開始

2018年

- 道の駅石狩「あいろーど厚田」で「煎り落花生」、和洋菓子のなかむらで「落花生大福」の販売開始
- 北のめぐみ愛食フェア（札幌市中央区）に出展